

教科	科目	学年	単位数
音楽		1年	2
使用教科書		副教材	
MOUSA1 (教育芸術者)			

1. 学習目標

- ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かすことができるようにすること。さらに、音楽に関する歴史や文化的意識を、表現や鑑賞の活動を通して、自分との関りの中で理解できるようにする。
- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考えることにより、自分のイメージをもって音楽表現をしたり、音楽を評価したりしながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。
- ・音楽活動を通して、音楽と人々の生活などとの関りに関心をもち、音楽が人々の暮らし、地域の風土、文化や歴史などの影響を受け、社会の変化や文化の発展とともに生まれ育ってきたことを感じ取る。

2. 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p> <p>「観察」「ワークシート」「小テスト」により生徒のよさや成長の度合いを促し評価する。</p>	<p>自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができている。</p> <p>知覚・感受の様子を「観察」「ワークシート」を用いて評価するが、「観察」「ワークシート」を同等に用いる場合と、「観察」が「ワークシート」の記述を補完する場合がある。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。</p> <p>活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む様子を、題材を通じた継続的な「観察」と振り返りなどを記述したワークシートを同等に活用し評価する。</p>

3. 学習内容 [右ページ参照]

4. その他[科目の特徴や学習の注意点など]

音楽科の授業で大切なことは「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすること」「音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親む態度を育むこと」である。しかし、予測困難な時代の真ただ中にある今日、さらに「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと」「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、そのよさを一層味わえるようにすること」「生活や社会における音

や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくこと」にもポイントを置き、生活を豊かにする芸術文化とともに、持続可能な社会づくりへの寄与を芸術科の存在意義と考える。

	月	単元	授業内容	学習内容及びポイント
一 学 期	4	校歌を極める	「校歌」の歌唱と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史のある本校の校歌を調査・研究・プレゼン発表し関心を深めるとともに愛着をもって表現豊かに歌唱する。 ・斉唱や二部合唱の歌唱表現の特徴を理解したり、他のパートとの調和を意識したりして歌うための技能を身に付ける。 ・ユニゾンや3度・4度の響きを比較して表現形態の違いを捉え、それらの特徴と関わりを理解する。 ・斉唱や二部合唱を生かしたり、他のパートとの調和を意識したりしながら自分のイメージをもって表現を工夫する。
	5 6	パートの特徴を生かして歌おう	「翼をください」 「少年時代」	
	7	詩のリズムや語感を生かしてドイツリートを歌おう	「野ばら」 (ゲーテ：シュールベルト、ヴェルナー)	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のもつリズムや抑揚、語感などの特徴を理解し、それらを詞の内容や曲想と関わらせながら歌唱表現を工夫するために必要な発声、言葉の発音、身体の付き合い方等の技能も身に付ける。 ・リズム、メロディ、速度等の音楽を形づくる諸要素を知覚し、その働きを感受し歌唱表現を工夫する。 ・言葉のもつリズムや抑揚、語感に関心をもち歌唱表現に主体的に取り組む。
二 学 期	8 9	奏法による音色の違いを生かして箏を演奏しよう	「さくら」日本古謡 「さくら変奏曲」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の構造や奏法と音色の特徴との関連について理解し、それらを曲想と関わらせながら表現を工夫するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け演奏する。 ・音色やメロディ、強弱、速度などの音楽を形づくる要素を知覚しその働きを感受し、どのような表現を創意工夫するかについての表現意図をもつ。 ・奏法による音色の変化に関心をもち、イメージや表現の意図をもって活動に取り組む。
	10	ギターの二重奏で表現しよう	「グリーンスリーブス」(イングランド民謡)	
	11	テクスチュアを工夫してカ	カノン創作 「カエルの合唱」	

		ノンをつくる う	「静かな湖畔」	<p>付けたりするために必要な技能を身に付け創造的に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音を連ねたり重ねたりしたときの響きやリズム同士の絡み合いなどを知覚し、そこから生み出される表現効果を感じ取りながら、表現の意図をもって活動を進める。 音を連ねたり重ねたりしたときの響きやリズム同時の絡み合いなどに関心を持ち、イメージをもって主体的に創作活動に取り組む。
	12	オペラの魅力	「ラ・ボエーム」	<ul style="list-style-type: none"> 「ラ・ボエーム」より2つのアリアを取り出し、その曲想と音楽の構造、音楽の特徴とその背景となる物語との関わりについて理解する。 アリアの音色、リズム、旋律を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながらその関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠を考える。 オペラの面白さ美しさに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に鑑賞活動に取り組む。
三 学 期	1	「羽衣」の鑑賞を通して能の魅力を探ろう	能「羽衣」	<ul style="list-style-type: none"> 能「羽衣」の声の音色や響き及び言葉の特性と謡の発声との関わりを理解する。 能の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。 羽衣の音色（声や楽器の音色）、リズム（拍、間）、速度（序破急）、旋律（詞の抑揚、節回し）を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 生活や社会における能の意味や役割について考え、能「羽衣」のよさや美しさを味わって聴く。 能「羽衣」の鑑賞を通して能の特徴を捉えることに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組む。
	2			
	3	人々が音楽を愛する理由	「ヴァイオリンソナタ第28番ホ短調」 モーツァルト 歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」ボロディン	<ul style="list-style-type: none"> 旋律、テクスチャ、構成等の知覚・感受をもとに、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解する。 旋律、テクスチャ、構成等の知覚・感受をもとに、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて得た知識を活用して、曲の特徴や魅力を見つけ出す。 人々が音楽を愛好する理由や、人が生きていく上で知性による科学的な見方と、感性による芸術的な見方の大切さについて考える。